

シンガポールのアンさん

大津 隆文

シンガポールで暮らしている次女から二年ほど前に「これから株を始めようかと思っている」と聞いた。儲けるより損をするのではと気になったが、心配はしないでとのこと。証券会社の勧誘ではなく、日本人仲間が紹介してくれたアンさんという現地の女性が、善意(無料)で開いている教室に参加するらしい。基本は高利回りの小型株に投資し、銀行預金を上回る収益を目指すもので、彼女はこのやり方で億という資産を築いたそうだ。

アンさんの投資教室(オンライン)は十名ほどが参加していたが、最初は質素な生活、節約の大切さを説かれたという。彼女が熱心なキリスト教徒と聞いた時には一瞬宗教の勧誘目的かと疑った。しかし教え子達に入信を要請もしないし、彼女は儲けの一分を教会に寄付しているが、皆には同調を求めもしないそうだ。次女から結果報告はないが、多分大儲けも大損もしていないのだろう。

こんなにもいい方法を知らない人へ是非教えてあげたい、という善意の人がいるのだ。只より高いものはない、と無償の好意の裏をつい勘ぐってしまう自分が恥ずかしい。

数ヶ月前にアンさんが近く布教のため来日すると聞いて驚いた。弘前にある教会に三年ほど派遣される予定とのこと。彼女は日本が大好きな五十代後半の設計士、独身。それにしても、全く地縁のない土地に、しかも冬の寒さが大変厳しい土地によく来るものと感心した。次女は布教についてアドバイスを求められたが、英語教室を開くくらいは智恵しか出なかったと言っていた。生活環境の大きな変化に対応できるのだろうか、日本語の実力はどの程度だろうか、私まで気になる。

八月にはアンさんの送別会が開かれ、連れて行った次女の子は帽子をプレゼントされた写真が送られてきた。

信仰のためなら我が身の犠牲は厭わない、そんな行動を普通に出る人がこの自己中心的な世の中にいるのには感動した。そして彼女の日本での活動が実り多いものであることを祈らずにはいられなかった。